

# 銅・アルミ

## 市況見通し

### 2月

#### 銅

12月の伸銅品生産(速報値)は、前年同月比で6・3%増の5

万4680トで7カ月連続のプラスとなった。足元の伸銅品生産を増加方向にけん引しているのは、自動車、半導体、スマートフォン、ゲーム機、中国家電、ルームエアコンなど。一方、マイナスイオンとなつているのは、建築・建設関係やパッケージジエアコンなどが挙げられる。

万4680トで7カ月連続のプラスとなった。足元の伸銅品生産を増加方向にけん引しているのは、自動車、半導体、スマートフォン、ゲーム機、中国家電、ルームエアコンなど。一方、マイナスイオンとなつているのは、建築・建設関係やパッケージジエアコンなどが挙げられる。

#### 銅スクラップ景況予想

2月の国内銅スクラ



## 橋本アルミ取締役

## 橋本 健一郎氏レポート

#### 2月銅市況予想レンジ

LME銅セツルメント	12900~14000 <sup>ドル</sup>	強い
電気銅建値	207~231万円	強い
為替(1 <sup>ドル</sup> )	155~160円 (1カ月間TTM)	横ばい

底堅く、製錬・加工筋の買意欲も衰えていない。結果として市中原料は集まりにくく、供給不足が顕在化し、金融需給と実需需給が同時にひっ迫することだ。原料は集まりにくく、供給不足が顕在化し、金融需給と実需需給が同時にひっ迫することだ。原料は集まりにくく、供給不足が顕在化し、金融需給と実需需給が同時にひっ迫することだ。

#### LME銅・為替予想

2月のLME銅価格は、1ト1万2900

0~4千<sup>ドル</sup>の高値圏で推移すると予測。米欧の金融緩和が本格局面に入り、実質金利の低下とドル安進行がコモディティ市場への資金流入を加速させる。年初は年金・ヘッジファンドによる戦略的ロング構築が集中し、銅は電化・AI投資の象徴的資産として選好されやすい。

加えて、鉱山開発の遅れや製錬制約による

底堅く、製錬・加工筋の買意欲も衰えていない。結果として市中原料は集まりにくく、供給不足が顕在化し、金融需給と実需需給が同時にひっ迫することだ。原料は集まりにくく、供給不足が顕在化し、金融需給と実需需給が同時にひっ迫することだ。

2月のドル円は155~160円レンジを想定する。最大の焦点は米金利動向で、FRBはインフレの粘着性を背景に利下げを急が

ず、長期金利は高止まりしやすい。一方、日本は金融正常化が緩慢で日米金利差は依然大きく、基調はドル高・円安。

ただし、過度な円安局面では日米協調介入観測が浮上し、上値は限定されやすい。米金利の高止まりが続く限り、押し目ではドル買い優勢とみる。

#### アルミ

#### 2月アルミ市況予測レンジ

LMEアルミ現物後場買い	2800~3300 <sup>ドル</sup> (現物後場買い)	強い
スクラップ	プラス5~プラス10円 (前月最終価格より)	強い

#### アルミスクラップ景況予想

2月の国内アルミスクラップ需給は、回収

業の現場感では寒さによる解体・更新工事の停滞で発生量はやや低調。

一方、自動車や建材向け需要は堅調で、再生原料への引き合いは強い状況が続いている。市中原料は集まりにくく、需給はややタイト。価格は高止まりし、安定供給には回収網の維持と選別効率の向上が重要になる。

11月のアルミ圧延品生産量(板類・押出類